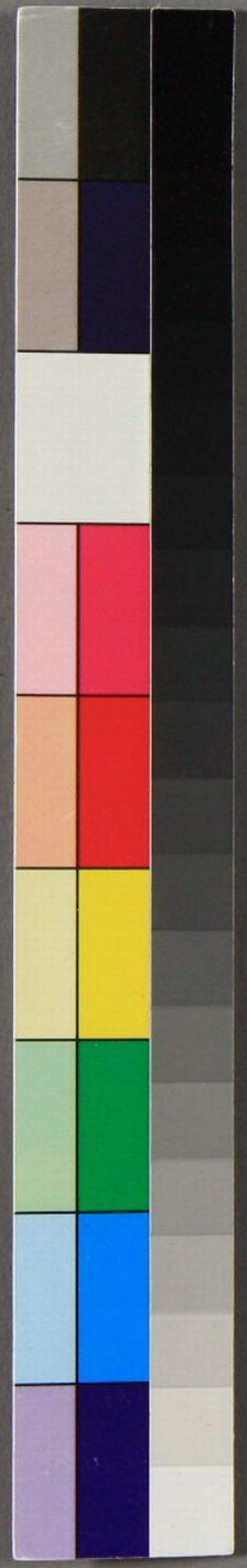


本朝
今昔物語

卷之一
世俗部





宇治大納言源隆國卿撰

井澤先生考訂纂註

今答物語

和朝部前編十五卷

京師書林柳枝軒新鐫

考訂今昔物語叙

了れらみ宇治大納言源隆國と人
 おん美これ醍醐帝は皇子西宮
 大に高明公乃孫と多権大納言
 俊賢の次男なり。後冷泉帝につく
 ちらて寵遇をくけけ人らて。いぬ
 しを好むらあて。世にけえ

心ゆくも紙聞ひたり。わづらひては
 多。これをききし。わづらひ。ききし。紙に。見
 けし。ち紙も。ききし。ききし。宇治乃
 別業。おもしろ。道のり。ききし。ふ。
 茶店。と。ゆ。付。果。お。人。を。ま。の。て。
 ち。と。物語。を。せ。と。お。て。本。朝。乃。故。
 事。天竺。震旦。なる。雑話。など。家。外。

ゆ。ゆ。書。記。して。終。り。と。こ。げ。く。乃
 冊子。や。き。き。し。其。け。は。久。小。今。昔。と
 出。き。し。紙。も。つ。と。紙。と。物語。の。号
 と。せ。り。作。者。の。名。も。よ。り。て。又。宇。治
 物語。と。唱。ふ。き。き。し。後。其。の。と
 き。の。紙。し。り。し。と。紙。宇。治。拾。遺。と
 して。な。り。き。き。し。拾。遺。と。な。り。

梓あざみみららるる也。然しかは書かくしよしくくしし割わりし
ししあありりどど。編輯えんぎんよりこのこのの殺ころ
百年ひゃくねんみみ及およびびめめまましし。謄あうしや寫しや志しららく
りりささかかららりりとと。文字ぶんじ脱だつ落らくしし。趣しゆ意い
りりらら難がたししものもの多おほしし。舊ふる記きののか
くくののごごくくるる也也。注しゆららこれこれをを歎あはげげらら
すすやや。京きやう師し書しよ林りん柳りゆう枝し軒けん予よ尔に

ははぎぎくく。ききぐぐささじじららぬぬ予よ
とと又またはは書かくくししらられれるるととわわらら
せせ。室むろ公こうももららくく。来きりりぬぬここののささじじ
ししあありりどど。愚ぐ意いととんんららぬぬ。
らられれををみみらられれ。ちちぬぬ思おもははすすここのの差さ
謬ごわわららりりららぬぬ

今昔物語の和朝卷一

享保五年五月朔日

肥後隈本

井澤節長秀

考訂今昔物語凡例

一 本書のや三十九巻。中ごろりろく六十巻とん。
 其六十巻ハ日本部二十巻。天竺部十五巻。
 震旦部十五巻。とべて六十巻なり

一 本書編輯年久しく。謄写をいくみ及いて。
 文字のゆるりあり。あついに脱して。趣意のゆるりが
 あり。のあり。あついに。舊記實録と援て。
 これを正し。従て註を加つて。事證を。附て補
 ぐ。そのの。書文と存と

一 本書に載ふこと。世系名諱。舊記實録

りつるもの故に其下に記して。観覧めたるは
 一は書名のよる所の人出自とあやするあり。伊勢
 津島とあり。藤原忠房の子とある類也。
 一人をとりて二人とするあり。其書を寛遠がそ
 ぐいかり。一人とあり一人とするあり。権中納言
 敦忠。土津中納言のよるあり。各系圖實録
 をして。これを訂と

一は書。舊本片解名とあり。今以呂波
 字にあり。これを記と

一は書り。載る所の事。著同集。宇治拾遺十訓
 抄のゆゑに。略して記と

一は書性異傳。お人の述るところ。うらぐとの
 ぞり。とあり。取捨よるは。くべ

一は書教考。とあり。印判。けお。日守部
 三十卷の内。十五卷を梓行と。其餘の十五
 卷と。天竺震旦部三十卷をい。遊く。終を
 板と

宇治隆國系圖

○醍醐天皇

高明親王

賜源姓正二位左大臣
號西宮

俊賢

高明公二男權大納言
正二位

顯基

權中納言從三位

○隆國

初名宗國。叙爵任侍從之後。寬仁二年改名隆國。歷
仕。而長元七年七月任參議。叙從三位。長曆元年十一月
叙從二位。長久元年九月任權中納言。康平四年二月辭退。

治曆三年二月更任權大納言。此人性質肥大而甚苦暑氣故朝參之暇盛夏為納涼屬趣宇治別業構茶店於道傍常招往還適客使啜一甌之茗聽其所談或本朝故事或天竺震旦雜話悉皆抄之。號今昔物語或曰宇治亞相物語而後輯其所編者號之宇治拾遺物語實可謂修史之資也。咸保元年正月辭任同四年七月九日卒。自承保四年至享保五年六百四十六年歟。

隆俊

中納言

俊實

隆綱

左中將

能俊

俊明

大納言

今昔物語全部六十卷

○日本部三十卷
○天竺部十五卷
○震旦部十五卷

内 日本部三十卷目錄

- | | | | |
|------|-----|------|-----|
| ○卷一 | 世俗傳 | ○卷二 | 世俗傳 |
| ○卷三 | 世俗傳 | ○卷四 | 世俗傳 |
| ○卷五 | 世俗傳 | ○卷六 | 世俗傳 |
| ○卷七 | 世俗傳 | ○卷八 | 世俗傳 |
| ○卷九 | 世俗傳 | ○卷十 | 世俗傳 |
| ○卷十一 | 世俗傳 | ○卷十二 | 世俗傳 |
| ○卷十三 | 恠異傳 | ○卷十四 | 恠異傳 |

○卷十五 怪異傳

右十五卷享保五年版行

○卷十六 惡行傳

○卷十七 惡行傳

○卷十八 惡行傳

○卷十九 惡行傳

○卷二十 宿報傳

○卷廿一 宿報傳

○卷廿二 宿報傳

○卷廿三 宿報傳

○卷廿四 佛法傳

○卷廿五 佛法傳

○卷廿六 佛法傳

○卷廿七 佛法傳

○卷廿八 雜事傳

○卷廿九 雜事傳

○卷三十 雜事傳

右十五卷可追版ス

○自卷三十一至四十五

天竺部

○自卷四十六至六十

震旦部

右三十卷可追版ス

都合三國部全部六十卷可逐年而梓行ス

今昔物語部 一

今昔物語部 一 目錄

○世俗傳

- 一 北色大於長谷雄中納言語
- 二 百濟川成与飛彈工匠挑語
- 三 碁擲寬蓮色碁擲女語
- 四 於凡上到殿返男針返女語
- 五 行典藥寮治病語
- 六 女行醫師家治瘡迹語
- 七 震旦僧長秀素此初為醫師語
- 八 忠明治值龜者語

今昔物語部 一 和朝卷一

〇乙

九 内磨右大臣兼兼馬諸

今昔物語 倭部一

○世俗傳

一 北邊大臣長谷雄中納言諸

今いむくしよをた大臣と人ねくける。名と

信くぞいけり。三代實錄曰左大臣從二位源朝臣信

系圖曰信左大臣正二位母廣井氏拾芥抄 者嵯峨太上天皇之子源氏第一郎也

十の皇子わたり。一條のよをみとみいけり。よ

よつて。よをた大臣とはりけり。よらげのよん

がよをた大臣とけり。よらげのよん

よらげのよん。よらげのよん。よらげのよん

秘傳 諸君 秘傳

かく弾多り。あつらふ大衆。ある夜、筆を弾、
すい。曉ぐらん。あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。
あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。
あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。
あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。
あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。
あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。
あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。
あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。
あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。

奇異の微妙な事なり

又中絶言長谷雄紀貞 龍子といひたる物士あり。世

うたふいまた学生あり。其人月のあつらふ

長。大衆寮の西乃門より物々。あつらふ

朱雀門のどけ層よ。冠ぬ禰をさつらふ人れ。長は

上の椽らうくあつらふ。文を誦してあつらふ

うら。長谷雄これとて。我は異人とてあつらふ

あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。

あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。

あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。

秘傳 諸君 秘傳



今昔物語の御車巻

二 百済川成と龜潭工匠挑諸

今いひて百済の川成といふ繪師ありたり。

文徳實録

曰散位從五位下百濟朝臣河成本姓余後改百濟の姓 氏録曰百濟朝臣出自百濟國孝慕王三十世孫惠王也

あしむれと考てありき。滝殿の石も。け川成がた

てころなり。同中堂の壁に絵も。け川成が書くる也。

あつふ川成後考の考をよと述して。あめねるひ

くろいも。あつふさうされい。あつふ家れ下敷とや

し。諸しといひて。年はつらひける。後考の考をよ。と

てめいげら。あつふの考をよと述して。あつふが

いふ。あつふの考をよと述して。あつふが考と知てたも。

あつふの考と考と述して。あつふが考と知てたも。

あつふの考と考と述して。あつふが考と知てたも。

あつふの考と考と述して。あつふが考と知てたも。

あつふの考と考と述して。あつふが考と知てたも。

あつふの考と考と述して。あつふが考と知てたも。

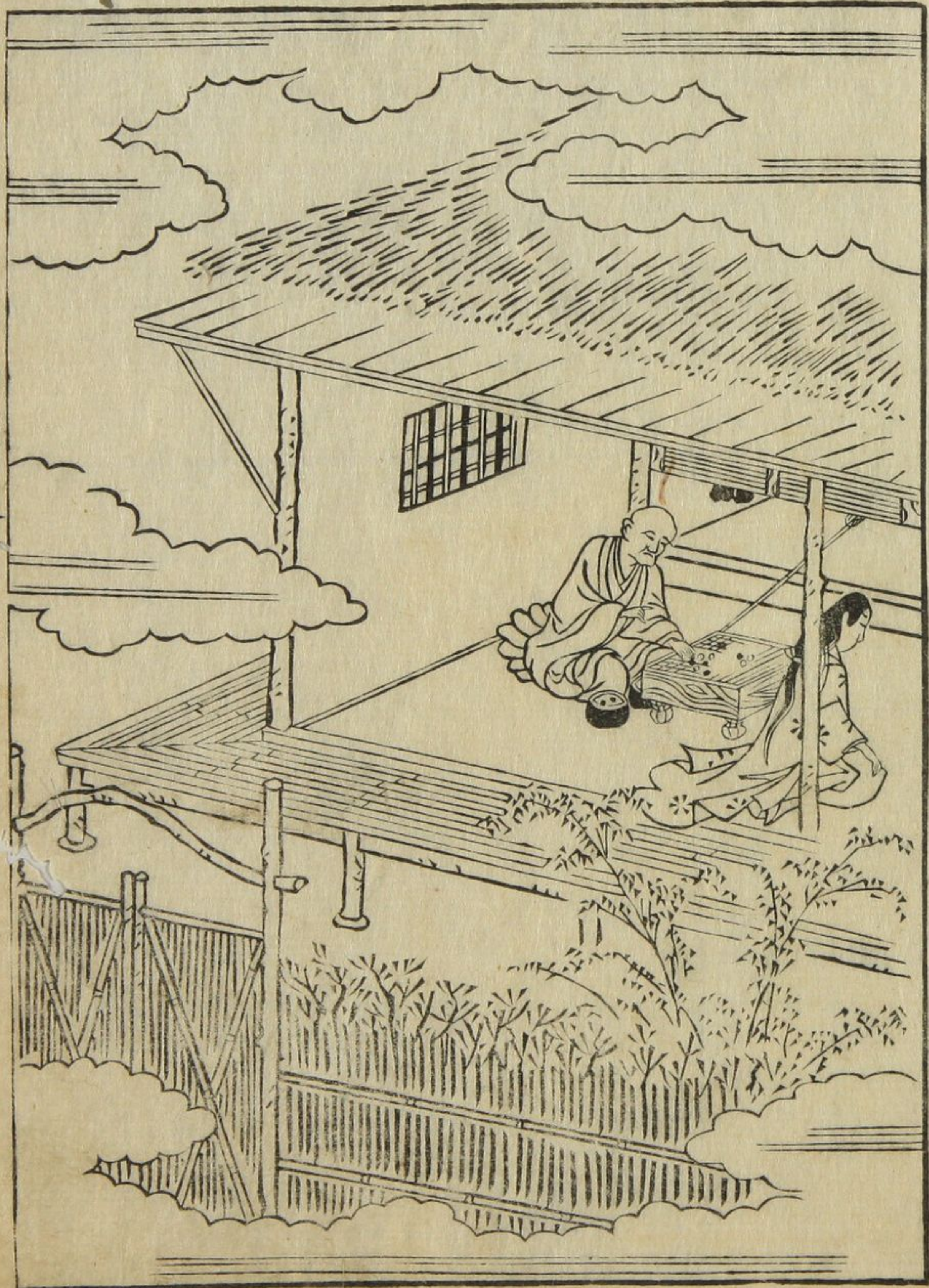
あつふの考と考と述して。あつふが考と知てたも。

あつふの考と考と述して。あつふが考と知てたも。

あつふの考と考と述して。あつふが考と知てたも。

あつふの考と考と述して。あつふが考と知てたも。

あつふの考と考と述して。あつふが考と知てたも。



新古今物語の和明卷一

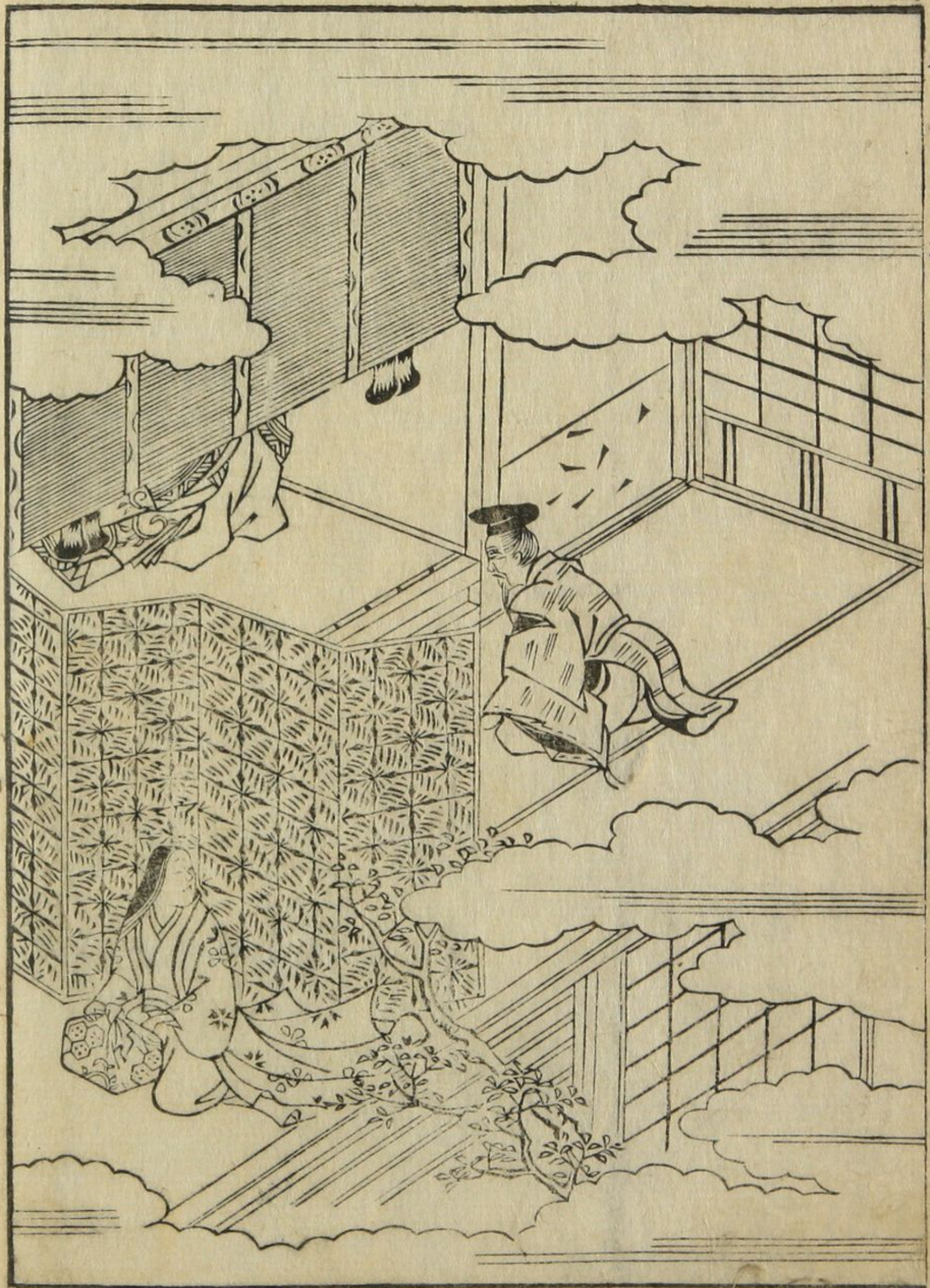
降参りてハ若らうらふとれまづせむするをいふて
 返りて翌日一うち堂と建立に和明の妹の是勅堂といふ也
 みるくくめくると。りちきまひよく。あて常は
 多うゆく程。あち日内よりゆりあて。一條より
 仁和寺へゆくと。西の太宮殿とくらんちんくまの
 女の童これまき。なげあぬぐ。寛まきぐまきまき子
 をよびうて。そのころ人ねやせとゆり。あう
 とほよびかきらうらま。まよまきとる人
 づまきゆらうらと。い。寛運これと関て。あや
 ちくゆい。い。げ女まきぐい。ちとぐい。東の遺ゆ
 ちゆい。女。土待門と道祖の太路ちんくまれあうり。松い障ま

つと奥あつて一絲もあつた。いふにせうはま
ごすう人あつた。いふにせうはま
袖ぬけつて針とあつた。いふにせうはま
のどつて。いふにせうはま
はるあつた。いふにせうはま
じて。いふにせうはま
ぬけつた。いふにせうはま
とあつた。いふにせうはま

五行曲藥寮治病女誌

今いじつ一典薬寮何果といふ人あつた。道よ

けまてあつた。いふにせうはま
らまてあつた。いふにせうはま
典薬寮の一家の醫師とあつた。いふにせうはま
下院といふとあつた。いふにせうはま
つて道遥といふ。いふにせうはま
みらて。いふにせうはま
あつた。いふにせうはま
たあつた。いふにせうはま
の張單に賤の積といふ。いふにせうはま
をけつた。いふにせうはま



うだうま。そのうち女はく。は次は何をも用ひ
ゆるん。醫師がいく。そと。養液湯と用る。外は治
あるぐ。びとそく。やうそく。びと。下。鷗。醫
師の中は。く。は。病。治。療。と。う。ま。の。ご。ま。ん。育
け。の。や。く。く。り。ゆ。く。く。り。ゆ。く。也

六 女行醫師家治癒迹語

今いじく。典業。改。と。て。厚。ん。ご。れ。と。醫。師。あ。り。ま。り。
世。く。あ。び。か。れ。ま。の。さ。り。ま。れ。い。ん。ま。び。ん。を。用
く。ら。う。り。ま。り。あ。り。日。け。典。業。改。の。作。り。く。ら。じ
く。装。束。し。り。女。車。と。い。く。り。改。れ。れ。と。み。く。い。づ。れ

夜晝七白ぐらり療とらんよらそめ顔つきく
 ちくちくして今きつてくちくちくしてきつた。其人と
 笑てそせうんとくまかどきして。茶よ用ひる茶
 をばやめて。茶碗の器く何業とそやありきん
 摺りたる物に鳥に羽とらて目もみよつなつま
 しくいひく念く。今其事はあはげんらりる。
 女房いひくいのらおれさふあやとちかきぬとせ
 せりりひくは。祖とこのまらぐ。きりれゆん
 とも。清東とそちりりる。のらなよそせをれとい
 せえゆん。又家にも常よゆでまんきどつん。

頭今四女白ぐらりひのけて居んとさして。あつた
 ぶ。夕ぐれがらん。の女房宿直物の着綿衣一
 つぐらんとそそく。女重孤具してぐあげく。鉄
 のともちくは夕れ合物とあきんと。盤いとの
 て。ぐらうおそ入わるぬ人あ。きん今ちるぐ
 さま。うゆはら何くそせわらめとせして。
 合物をめらうりぬ。ちるるやぶ。目もみよつな
 まづちかきんがんとゆして。火と灯臺のてんて
 りらびてんらぬ。衣もぬぬいらら。標の
 落りあり。えくくくして。屏風のうらうら。たも

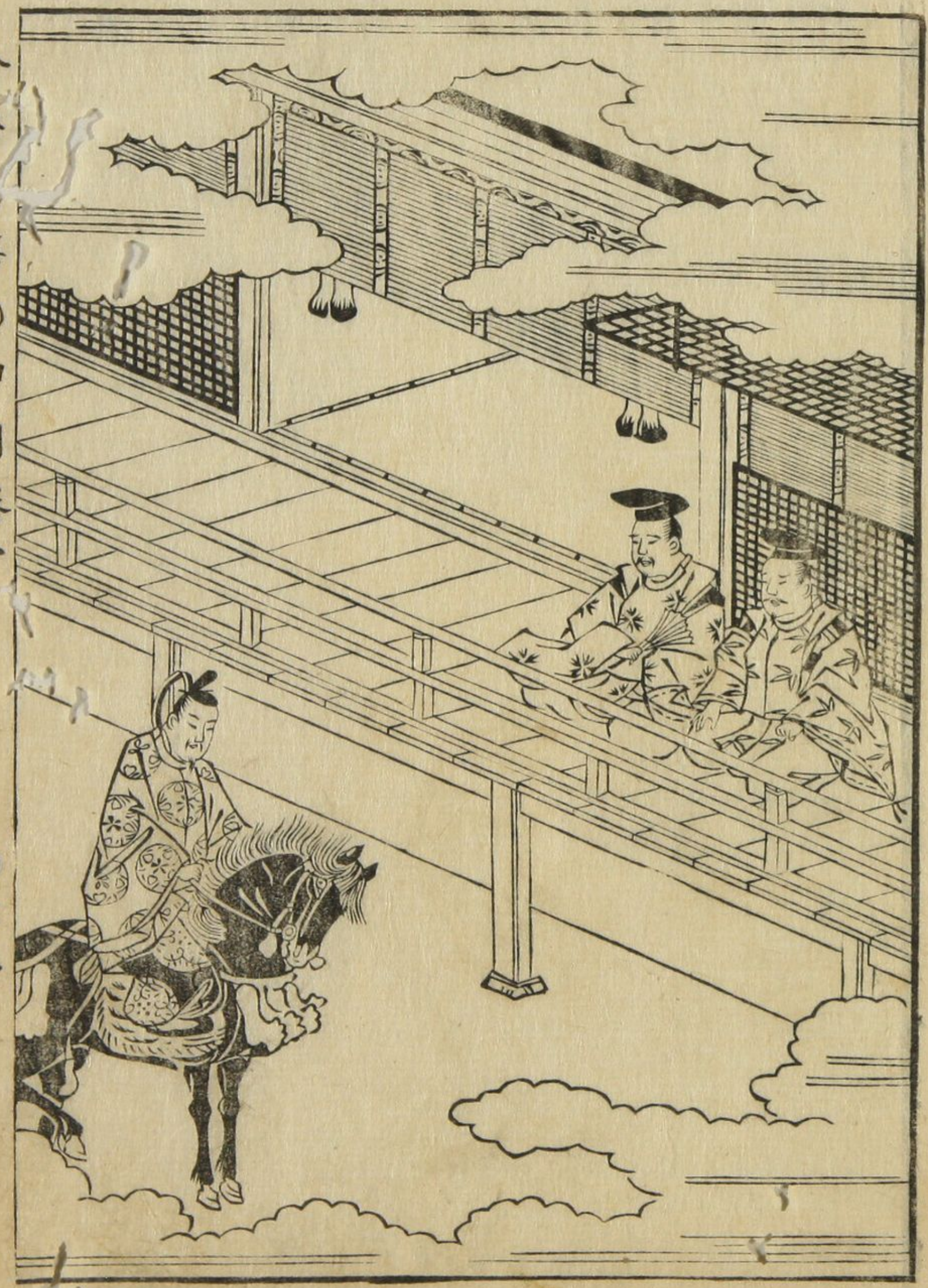
けいせいのうらわんとておのりておのりてくく何とせ
 とせあつていふ。屏風のしるさをとるふ。何とせ
 うらわんとておのりておのりてくく何とせ
 い。このまへにこのこゝをう。宿直物よとせ
 落綿れ衣てうらうらうら。びんいそれとせ
 若ふうらうらうら。胸うらうらてせん
 かくおのりておのりてのまへに。人のまへにゆら
 家内おのりておのりて。顔おのりて女の顔あり
 とは面影うらうら。おのりてくく何とせ
 あり。おのりておのりて。おのりてくく何とせ

ゆびくく。物いさせおのりてのまへに
 せういつるおのりておのりてくく何とせ
 ようおのりておのりて。おのりてくく何とせ
 りりくく。ややく中くおのりておのりて
 をすうて。顔とおのりておのりて。おのりて
 くれい。弟子の醫師おのりて。おのりてくく
 きる。世乃人く。おのりておのりてくく
 みくく。おのりておのりて。おのりてくく
 あり。おのりておのりて。おのりてくく
 中おのりておのりて。おのりてくく

今昔物語の御朝巻一

長きハヤシと云れど醫師して。薬方と云れど。
妙やけよきうくらう。今にありて倍つていふも也
ハ 忠明治値龜者詔

とひびく夏ごうよと云ふんとて。能くは八省の
廊よ長らけらう。一人の滝口わきうらひと云ふ
酒肴と云ふらう。さうやといふれ。他乃滝口
と云ふれを聞て。さう云ふ事あり。さう云ふれ
やうぐいやくいひやうれ。は滝口後者の男と
よらう。さういふと云ふらう。今ハ十町と云
しゆと云ふらう。さう云ふらう。さう云ふらう。



いふらうとせゆらうあるはふらうとくろり。げんた年
 いまごころくねくまらるは地戸宮とくはた子れ
光仁第四皇子 白壁天皇 光仁天皇 乃清子
母井上夫人 乃清子
 たり。げんたの御子と馬ありて。人乃まんとする
 とたぬ。ちんくくぬねく。あくくまのめち。ま
 うあう地戸宮といふやがくく人。内磨みけらふ
 のつとく。んきくれよこのはゆ。内磨ぶく。いりか
 くのまゝ氣色也ちく。まあぶく。さう。ぬのさあ。是
 を内人やらねそれて。内磨びるま。作路れで
 うせま。いさん。と。い。ぬ。く。ま。げ。さ。あ。く。う。ま。う。

まごも内磨臆く。あふ氣色ちく。は馬く。のま
 めん。馬とくみくけく。た得ど。さむく。難
 うらう。あんど。う。ま。あ。た。さ。あ。ひ。く。て。を。を
 ひ。さ。い。ぢ。う。や。て。見。あ。ひ。く。う。ん。ぬ。ま。の。ま。あ。ふ。ら
 て。き。い。ん。よ。い。ゆ。ん。ま。さ。ぢ。う。ま。り。わ。さ。か。先。ま。く。ま
 ち。あ。ら。じ。う。い。う。ふ。ん。ち。ん。ゆ。ん。く。ま。ら。わ。さ。う。り
 け。さ。え。く。ら。さ。也

今昔物語一

平安六角通御幸町西入町
享保五庚子年孟春穀旦
柳枝軒茨城多左衛門壽櫻



